

〔室内作業〕

- ・コンピュータおよび簡易 GIS ツール（図 参照）

■野外調査方法

いずれのイベントにおいても調査は参加者を3つのグループに分け、対象地域内を分担して行われた。午前中の約2時間程度、各グループごとに担当地域を歩き、下記に示す生物や景観について踏査した。

○巣子生きもの地図 テーマ【秋の草花】：ヒヨドリバナ、ヌスビトハギ、クズ、ススキ、ノコンギク、ミズヒキ、オオブタクサ

○武庫生きもの地図 テーマ【水辺の生きもの】：オオカナダモ、エビモ、ヤナギモ、ハグロトンボ、イトトンボ類、ハヤ

○巣子景観マップ：すてきな風景が見える場所、おすすめの場所、見苦しい場所

■室内作業

午後は今回のプロジェクト用に開発した簡易 GIS を利用して、それぞれのグループごとに調査結果を入力した。作業入力前に簡易 GIS の使用方法に関する解説を行った。入力後の休憩時間に全グループのデータを統合し、ワークショップに利用した。ワークショップでは統合したデータをプロジェクトで大きく投影し、参加者全員で地図を見ながらディスカッションを行う形とした。

3. 結果

参加者からは概ね好評であった。特に自らが調査した結果を、参加者全員で共有し、俯瞰すること、他の地図や衛星画像と重ね合わせすることで地域全体の様子を考えるきっかけになったことなどが効果として上げられる。また調査は詳細に地域をみることにつながり、参加者に新たな発見をもたらしたようである。このような活動を、継続的に／より広域で／他の生きものや歴史的な事物の地図化などで行うことを望む声が寄せられた。

4. 今後の課題と発展

今後の課題としては簡易 GIS 上でコメントや写真などを地図上に載せたいという意見があったので、システムの改善が挙げられる。

いずれの事例地においても市民団体と協働で同様の試みを継続して行っていく予定である。また岩手県立大学においても同様の視点を持った演習を計画している。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

論文および地元向けの報告書については、現在とりまとめ中である。